

□ 研修会参加レポート

～平成23年 駐車場関連の研修会に参加して～

福岡駐車協会
九州勸業株式会社
部長代理 馬場 善三郎

6月16日（木）朝から生憎の小雨となりましたが、研修会が始まりました。バスの窓から落ちる水滴を眺めていると、“京都是、雨が似合う街ですよ”とのバスガイドさんの巧拙な話が聞こえてきました。

私は、(社)全日本駐車協会主催の研修会へ参加させていただく時に何時も思うのですが、会員皆様方が、感心するほど集合時間を遵守されるということです。研修開始時間の10分前には、参加者全員が集合されます。私が住んでいる「博多」では、「博多時間」というのがあり、町の集まりや会合に、必ず時間に遅れてくる人がいるのです。そういう人に限って、時間に遅れたことを悪びれる様子もありません。しかしながら、「博多時間」のホントの意味は、相手を配慮するのが「博多時間」です。本来「博多時間」というのは、博多で商家を訪問するときに、約束の時間よりも早く行くと迷惑をかけるので、その時刻ちょうどか少し遅れて訪問するのが礼儀となっているのです。なのに、「博多時間」を曲解する人がいるのです。だから、私は「博多時間」を曲解しないように、心がけています。このようなことに思いを巡らせている内にバスは、「ウェスティン都ホテル京都」を出発いたしました。

『電気自動車用リチウムイオン電池2次利用事業開発のための実証実験』

まず最初に向かったのは、(株)ジーエス・ユアサコーポレーション京都事業所です。ここと隣接しているコンビニエンスストア「ローソン吉祥院里南店」で電気自動車用リチウムイオン電池2次利用事業開発のための実証実験が行われています。全員で見学すると、「ローソン吉祥院里南店」に大変ご迷惑をお掛けしますので、7班に別れて見学しました。残りの人は、(株)ジーエス・ユアサコーポレーション京都事業所のショールームを見学いたしました。



(株)ジーエス・ユアサコーポレーション
京都事業所

電気自動車用リチウムイオン電池2次利用は、日本初！だとお聞きしました。(株)GSユアサ、三菱商事(株)、三菱自動車工業(株)、(株)リチウムエナジージャパンの4社によって、この実証実験は行われています。三菱自動車(株)の新世代電気自動車「i-MiEV（アイ・ミーブ）」に搭載して使用したリチウムイオン電池（2年間使用した電池です。「LEV50」×88個 電気自動車1台分

です。)の再利用実験です。実証実験は、今年の1月26日から開始されました。今のところは、問題点なく順調に蓄電しています。

4社は、1年をめどに実証試験の成果を精査し、リチウムイオン電池のリユース品活用によるエネルギーコストの低減と電池資源の有効活用を通じた環境負荷低減の効果をモニタリングされるそうです。

尚、実証試験では株式会社GSユアサが開発した「P V E Vシステム」(P Vは、太陽光発電を意味します。)を活用します。このシステムは、太陽電池、三菱自動車「i-M i E V (アイ・ミーブ)」搭載のL E J社製リチウムイオン電池「L E V 5 0」、GSユアサ製のE V用急速充電器「E V C 2 0 K D」で構成されています。実証試験では、①システム全体の実用性、②リチウムイオン電池のリユース品の技術的検証、③太陽電池で発電した電力のE Vへの充電効率、④コンビニエンスストア設置時における充電中の待ち時間に対する利便性などを確認し、ドライバーが安心してE Vを利用できる社会インフラの構築を目指しているそうです。

具体的には、コンビニの屋根に設置した、太陽電池がうみだしたCO2排出量ゼロの電力でE Vの充電ができるほか、災害時も太陽電池で得られた電力で必要最低限の充電ができます。系統が停電中であっても、非常用コンセントから電力を供給することが可能なシステム構成と

なっています。また、将来は充電中の待ち時間にはE V用急速充電器の大型液晶カラーパネルを使ってさまざまな情報の提供や音楽・動画などの配信も検討されているそうです。ちなみに、コンビニを選定場所にした理由は、災害時も含めて多くの人に利用できる場所として、地域密着型のコンビニエンスストアが実証実験に最適な場所と判断したそうです。

先日も朝日新聞の記事に、三菱自動車はE Vなど環境対応車が「災害対応車」になるように改良に踏み切ると発表されていました。この場所でまさに今実験が行われているのだと実感いたしました。専用の装置を開発して、今年度中にE Vを非常用電源として電力使用量が多い電気ポットや炊飯器などが使えるようにするそうです。停電時に住宅自体の電源にすることはできないが、直接家電につないで使うことができるそうです。個人向けのほか、自治体などが防災対応車として購入することを想定しているそうです、まさに今回の東日本大震災で一番困った、「電源がない」と言う問題の解決策になるのではないかと期待されます。また、三菱自動車は、今夏に200万円を切る「アイミーブ」を発売予定との新聞記事もありました。この実



ローソン吉祥院里南店



リチウムイオン電池「LEV50」



(株)GSユアサ ショールーム見学

証実験施設を見学し、EVが主流になる時代は、遠い未来の話ではないと確信いたしました。

『京都府庁見学』

11時00分に京都府庁に到着。ここでは、電気自動車用カーボンフリー急速充電設備と屋上緑化施設「京てらす」、京都府庁旧本館（重要文化財）及び庭園見学となっています。

①電気自動車用カーボンフリー急速充電設備見学

まず、京都府庁2号館の屋上へと向かいました。そこには、太陽光発電装置が設置されていました。京都府庁の担当者によると、景観を考慮し、外から見えないように5%の傾斜で太陽光パネルを設置しているとのことでした。日本初の本格稼動で『未来型電気自動車用充電システム』、『(「太陽光発電」+「充電設備」+「電気自動車用急速・普通充電」)』です。府庁2号館屋上に設置されている太陽光発電(20KW)により発電した電気を、特殊な蓄電設備にて蓄電し、カーボンフリーエネルギーとして、電気自動車への急速充電及び普通充電(200V)に利用できるシステムだそうです。天候や時間帯により、不安定な太陽光発電を有効に活用するため、リチウムイオン電池を用いた蓄電装置を併設しています。京都のニチコン(株)が開発した特殊な蓄電設備により、電池への負荷を軽減し、電池の長寿命化が可能。利用者への利便性を考慮し、太陽光発電による蓄電が不十分な場合にも、系統電力からの補助電力により、いつでも電気自動車への急速充電及び普通充電の稼動が可能だそうです。平成22年7月27日(火)から稼動を開始しています。



太陽光発電装置 (2号館屋上)



急速・普通充電設備

尚、電気代は無料で、一般開放されています。この電気自動車用カーボンフリー急速・普通充電器は、京都府庁2号館前に設置されていました。

※カーボンフリーとは、CO₂を排出する活動をした際、そのCO₂の排出量を計算し、その排出量に見合ったCO₂削減活動に投資や寄付をすることで、排出されたCO₂を埋め合わせするという考え方。

②屋上緑化施設「京てらす」見学

太陽光パネルが、設置されている屋上の隣りに屋上緑化施設「京てらす」がありました。屋上緑化は、地球温暖化対策のひとつとして、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善が期待されます。京都府では、このことを、広く府民に知ってもらうため、先導的モデルとして府庁第2号館の屋上を緑化したのです。

◇屋上緑化「京てらす」概要

- 緑化面積 約600平方メートル
- 全体のデザイン 京都らしい植栽を基本に府民
参画エリアもある芝生広場

○エリア

- ・芝生広場エリア（北山の景観を活かした芝生と
植栽のエリア）
- ・植栽エリア
- ・壁面緑化エリア（中央棟屋の東面の壁面緑化）
- ・府民参画エリア（ボランティアグループのエリア）
- ・源氏の庭エリア（源氏物語ゆかりの草花を植栽した花壇）
- ・植栽（中低木）イロハモミジ、ヤブツバキ等（芝生）コウライ芝



京テラス

この施設は、月曜日から金曜日（土曜日、日曜日、休日、祝日は除く。）の9時～17時に一般公開しています。

この施設の特徴として、屋上緑化による建物表面の温度抑制効果を目で確認できるよう温度表示パネルが設置されています。また、府民の皆さんに屋上緑化に楽しみながら関わっていただけるよう、ボランティアを募集して、植え込み作業や手入れを手伝ってもらっているそうです。

③京都府庁旧本館（重要文化財）及び庭園見学

京都府庁第2号館に隣接して建っているのが、京都府庁旧本館（重要文化財）です。京都府庁旧本館は、明治37年12月20日に竣工しました。昭和46年まで京都府庁の本館として、また、現在も執務室や会議室として使用されており、創建時の姿をとどめる現役の官庁建物としては日本最古のものだそうです。平成16年12月10日に国の重要文化財に指定されました。ルネサンス様式に属する建物の外観（添付写真参照）は、正面の一段高くなった屋根を中心に左右両翼に対称に張り出した形となっており、威厳のある格調高い建物でありました。



京都府庁旧本館

建物内部にも和風の優れた技術が巧みに取り入れられており、国の重要文化財に指定されるべき価値がある建物であると実感させられました。建物本体だけでなく明治から大正期を代表する庭師である七代目小川治兵衛が設計した庭園も見応えがありました。その中庭には、6本のしだれ桜があり、その桜のひとつが非常に珍しいものであるそうです。桜の季節は過ぎ去り、綺麗であろう桜の花は、見ることはできませんでしたが、機会があれば是非一度は見に来たいと思わせる立派な枝ぶりでした。深緑が眩しい庭園でした。

『南禅寺「順正」にて昼食』

エコ施設と文化の香り溢れる京都府庁を後にして、今度は昼食会場へと向かいました。時刻は、12時20分、昼食時間には調度いい時間になりました。昼食会場は、あの有名な豆腐料理の南禅寺「順正」です。もしかしたら、今回の研修で一番楽しみにしていた、見学？かもしれません。

南禅寺「順正」は、天保10年、蘭学者新宮涼庭が学問所「順正書院」として開設した由緒ある建物や庭を受け継いでいるそうです。自家製豆乳を使った作りたての美味しい豆腐コースでした。ちなみに私は、豆腐は苦手ですが、「順正」は、大変美味でした。



順正（昼食場所）

『南禅寺参拝』

南禅寺「順正」での昼食を終わり、南禅寺の参拝へと向かいました。

南禅寺は、亀山法皇が正応4年（1291年）に開基された寺院で、臨済宗南禅寺派の大本山であります。また、本尊は釈迦如来で、「方丈」は、国宝に指定されています。

私は、何度も南禅寺を訪れていますが、一番印象に残っているのは、あの有名な三門（重要文化財）です。特に秋の紅葉は、言葉には言い表せないほど素晴らしい光景が繰り広げられます。そんな想いをしながら、初夏の風景を味わいました。

また、境内を探索していると、眼の前にローマの水道橋みたいな建築物が現れました。これは、境内を通る琵琶湖疏水水路閣でした。テレビのドラマによく登場する場所です。

研修会もそろそろ終わりの時間に近づき、集合時間となりました。もっと京都を楽しみたいとの気持ちもありましたが、解散場所である京都駅へバスは向かいました。

先日の京都市環境政策局環境企画部 環境管理課長 宇高史昭氏の講話でも感じましたが、京都の地球温暖化に対する“熱い想い”は、すごいものがあると感じました。また、今回実際に京都にある諸施設を見学させていただきより一段と実感した次第です。

最後に今回の研修会開催に多大なご協力をいただいた(株)ジーエス・ユアサコーポレーション 京都事業所の皆様、「ローソン吉祥院里南店」、京都府庁の担当者及び全京都駐車場協会の方々、また、全日本駐車協会企画委員会の方々に対し厚く御礼申し上げます。



三門



水路閣

以上